

[7月度例会] 日時：2016年7月7日(木) 18:00~20:00

「企業(組織)倫理の構築をめざして」

～「企業(組織)の論理」から「企業(組織)倫理」へ～

講師：細谷技術士事務所 細谷 陽三氏(金属)

1. はじめに

細谷氏は鉄鋼研究所在任中に論文査読等の審査委員をされ、東北大学等での JABEE 認定の技術者倫理に関する講師の 10 年あまりの経験から得た技術者倫理教育や倫理規定に関する豊富な知見を踏まえて、最近の倫理違反事例に見られる研究論文不正やデータ改ざん・ねつ造の問題についてまず紹介された。続いて、①企業の社会的責任(CSR)・社是などがあるのに、なぜ不正事件が発生するのか、②組織と個人との葛藤に打ち勝ち、集団思考の弊害を打破する資質能力、リーダーシップが必要、③自己中心を超えて他人のことを考える、即ち「世のため人のために仕事する」企業倫理・組織倫理の構築の重要性、などについて講演いただいた。

2. 講演内容

(1) 最近の倫理違反事例の紹介：STAP 細胞の論文不正事件、JR 北海道のデータ不正事件、東洋ゴム免震不正事件、三菱自動車燃料データ不正など

(2) CSR とか社是・企業行動憲章などがあるのに、なぜ不正事件が発生するのか！

(3) 技術者倫理について改めて考える！

集団思考の弊害、組織と個人の葛藤に打ち勝つ、個人と集団の関係、経営の命令に対して拒否する勇気を持つ、異質の組合せメリット、組織倫理綱領の提案など

(4) 組織倫理等に関する一考察

・組織を構成する個々人は個としての意識と他者に対する意識の両方を持つことが重要。しかし、技術者倫理を勉強し、モラル感覚のある方々が集まっても集団思考の罠に陥る。

・集団思考の問題は、①赤信号、皆で渡れば怖くない、②集団の利益優先、③上司の決定には逆らえない、④議論の最後は多数決で決定、などの意識が組織内に蔓延することである。また、社員の規範順守意識の「鈍磨化」を醸成する企業風土なども簡単に作れる。

・組織側の論理は、組織運営とガバナンスを重視し、組織内の人間を従う者として扱う。組織からの指示などにより個人の技術者倫理と集団の組織論理の間で大きな葛藤が生じる。

・上位下達の組織方針であっても、深く洞察して組織に逆提案するなどの行動が必要で、組織内での内部告発も積極的にやるべき。風通しの良い組織、持ち場・立場で仕事に誇りを持って取り組める職場の構築が大切である。

・新たな企業倫理の構築のためには、核となる人材が必要で、技術士を含む一流技術者は明確なデザインと現場感覚を持って、リーダーシップを発揮すべきで、人間社会構築に貢

献する意識を持ち、組織倫理を社会全体の倫理にまで発展させる心意気も必要である。

3. おわりに

経営者に企業倫理を教育すべしとの意見が出た。技術者倫理よりも重要なのは経営倫理である。最終的な不正防止には、経営側から不正を強要されたとしても不正を許さない企業現場の技術者がいて、それに抵抗できる組織風土の醸成が必要となる。